**韓中「ワタリガニ戦争」再燃　中国の北朝鮮への入漁料支払いは制裁違反ではないのか**

韓国は今、ワタリガニの季節だ。ワタリガニは韓国でもっとも漁獲量が多く、蒸してよし、鍋でよし、漬けてよしで、庶民の食卓に欠かせない韓国人大好きのカニである。「漬けてよし」はしょうゆ味で漬け込んで生で食べる「カンジャン・ケジャン」だが、韓国料理の珍味中の珍味である。

　シーズンを迎えた西海岸沖の黄海では操業が盛んである。そのうちソウル市民の食卓を飾るカニの最大の漁場は北朝鮮との海の軍事境界線周辺。通称「西海（ソヘ）５島」の周辺で、北朝鮮との軍事衝突がひんぱんに起きている。このため日頃は北朝鮮が“主敵”だが、この季節になるとそれが中国に代わるのだ。

　とくに南北境界線付近は軍事的緊張が高いので、韓国漁船は衝突を避けてあまり近づかない。そのスキをついて中国漁船が大量に進出し、数百隻で網目の細かい底引き網を使って稚魚を含め何からなにまでかっさらっていく。

　近年、毎年繰り返されている風景だが、今年はワタリガニの漁獲量が昨年同期の３分の１とあって漁民の怒りが爆発した。

　先日は韓国漁船が中国漁船を“拿捕（だほ）”して韓国当局に引き渡すという笑えない話まであった。世論は「韓国の軍・警は何をしているのだ！　政府は中国にちゃんとモノ申しているのか！」と沸騰している。

船団を組んだ中国漁船は怖いモノ知らずで、南北軍事境界線など平気で無視して取りまくっている。境界線に接近できない韓国漁船としては切歯扼腕（せっしやくわん）、歯ぎしりの状態である。

　こうした中国漁船を韓国メディアは「もはや海賊みたい」といっているが、韓国政府の抗議に対して中国政府は「努力はするが取り締まりはうまくいかない」と回答しているだけで放置の状態という。

　中国は尖閣諸島（沖縄県石垣市）周辺では毎日あれだけ警備艇や軍艦を出動させ、海上威嚇行動をしていても自国漁船ひとつ取り締まれない。中国は国際常識を守らない「法治無視の放置国家」というわけだ。

　ところで黄海の南北境界線のワタリガニ漁場への中国漁船の進出には、実は北朝鮮の事情が深く関係している。

　あの海域にはもちろん北朝鮮の漁船も出漁しているが、北朝鮮はてっとり早い“外貨稼ぎ”の手段として入漁料のかたちで中国漁船に漁場そのものを売ってしまったというのだ。だから北朝鮮漁船は中国漁船には文句はいえない。

　東海岸沖の日本海のイカ漁場でも同じことが起きているという情報もある。

　経済的に苦境が続く北朝鮮の「最大の外貨収入源は資源輸出、資源売却」といわれてきた。それが外国人を驚かす最近の首都・平壌の華やかな（？）消費風景を支えてきた背景の一つといわれる。主な収入源は国境を接する中国だった。漁場という名の海の資源もその一環というわけだ。

中国漁船はあのワタリガニの漁場をいったいいくらの入漁料で北朝鮮から入手したのだろうか。北朝鮮の中国からの外貨収入はいくらなのか。このことを韓国政府は中国政府にただし「対北制裁違反ではないのか？」と追及すべきではないのか。それは韓国にとってワタリガニ資源を守る道でもある。韓国も中国相手にそんな“一石二鳥”の外交をやってみてはどうか。（ソウル　黒田勝弘）